様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２１年　５月　２５日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2006～2008
課題番号：18730314
研究課題名（和文）　建設産業における若年不安定就業層の実態に関する社会学的研究

研究課題名（英文）　Sociological Studies of Youth Unstable Workers in Construction Industry

研究代表者
山口　恵子（YAMAGUCHI KEIKO）
弘前大学・人文学部・准教授
研究者番号：40344585

研究成果の概要：
本研究では、建設業を含めた不安定労働で働く若年層の生活と就業の実態について明らかにし、現代社会における若年層の貧困・ホームレス化と労働市場の特徴について検討を行った。そして、地方の労働市場における建設業の位置づけと人々の地域移動、現代の就業構造や貧困の再生産を背景とした、若年層の不安定な労働・生活について指摘を行った。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	800,000	0	800,000
2007 年度	700,000	0	700,000
2008 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,100,000	180,000	2,280,000

研究分野：　社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：ホームレス、若者、建設業、不安定就労、日雇

１．研究開始当初の背景

(1)野宿者の増加と建設業

90 年代以降、日本の各都市で野宿にいたるような貧困層が増加している。彼／彼女らの多くは、野宿する以前に、建設・土木の仕事に従事してきたことが、多くの実態調査からも明らかとなっている。ここから、現代の貧困層増加の背景には、これまで失業者の受け皿となっていた建設産業の変容があることが予想された。

筆者は、この野宿者増加の背景について、戦後の都市の就業構造の変容の側面から社会学的に明らかにすることを目的とし、調査を継続してきた。とりわけ関東圏において、戦後、失業者の受け皿となっていた建設産業の今日的変容と、その下層労働者層の就労動向について、実証的に明らかにしてきた。

(2)若年層と不安定就労

研究をすすめていくなかで、建設業における若年層の動向がひとつのキーになることが分かってきた。つまり、建設業の就業構造において、とりわけこれまで中・高齢の日雇労働者が担ってきたような仕事を派遣・請負会社から派遣されてきた若年層が担うようになっており、無視できない規模になっているようであった。

本研究では、こうした経過を踏まえつつ、若年建設労働者の就労実態に注目した。しかし、近年の非正規雇用化の高まりのなかで、若者のつく職種の変化は激しく、広く日雇労働的な働き方のなかでさまざまな職種の仕事を転々とする傾向があることが明らかになってきた。

２．研究の目的

以上を踏まえて、本研究では、これらの若年層がどのような就労・生活の実態にあり、いかに貧困・ホームレス化していくのか、また、現代の若者をとりまく不安定就労の構造のなかで、建設業の労働市場がどのように位置づいているのかを明らかにすることを目指した。

３．研究の方法

本研究は、マルチメソッドの質的調査の方法を用いている。具体的には次の通りである。

(1)資料・文献収集・分析

若者の雇用と生活問題、日本の就業構造の変容、貧困・ホームレス関連等の資料・文献収集を行った。また、建設業を中心とした各種統計資料や、関連する労働組合、NPO、行政が発行したパンフレット・資料、社会調査のデータなども収集・分析につとめた。

(2)新聞記事検索・分析

朝日新聞のデータベースを用いて、「若者」「ホームレス」「貧困」「日雇」などのキーワードで記事を検索・収集し、共時的・通時的な内容分析を行った。

(3)既調査データの再分析

これまでに筆者が参加した、建設業事業主調査、東京のホームレス調査の聞き取りのデータについて、若年層に着目しながら再分析を行った。また、ホームレスの施設が発行している利用者調査の統計なども、年齢層による違いに焦点をあてて、再分析した。

(4)街中観察・聞き取り調査

インターネットカフェや漫画喫茶などの、ホームレスの人々が利用している街中の施設の観察と、施設の出口にて簡単な利用者調査を行った。可能な若年層の協力者には、1時間程度の聞き取りも行った。

(5)聞き取り調査

ホームレスや非正規雇用問題に取り組む組合やNPOの関係者に、現況に関する聞き取りを行った。また、非正規雇用および建設業で働く若年層への聞き取り調査を行った。

４．研究成果

(1)建設業／労働市場の変化と地域移動

若年層のホームレス・貧困問題の背景のひとつとして、大都市と地方の地域間格差のなかでの人々の移動・流入という構造的問題が考えられた.

例えば、大阪府のネットカフェやホームレスの自立支援センター等にて行われた「若年不安定就労・不安定居住者」への100人の聞き取り調査でも、出身地の判明した 92 人のうち、大阪府出身34人（36.9%)、近畿圏出

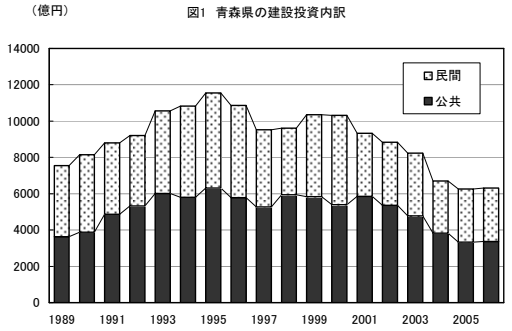
身 18 人（19.6%）、その他都道府県 40 人（43.5%）であり、4 割強が近畿圏以外の出身の流入層であった（釜ヶ崎支援機構他 2008）。

また、東京都のホームレスのための緊急一時保護センター「大田寮」の利用者 1,100 人の調査で、34 歳以下の若年層 58 人のうち、有効票 46 人の出身地の内訳は、東京都 12 人（26.1%）、関東圏 15 人（32.6%）、その他道府県 19 人（41.3%）となっており、やはり、約 4 割が関東圏以外からの流入層であった（特別区人事・厚生事務組合 2003）。

この送り出す側の就業構造について、青森県を事例に統計分析を行った。

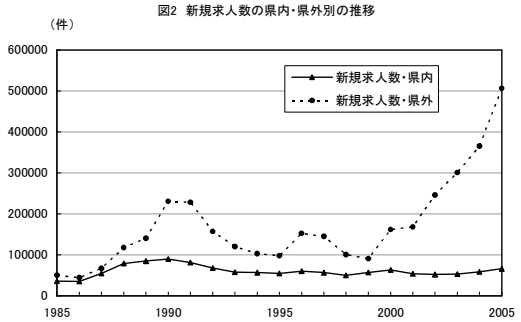
青森県は、比較的安定的に大きな雇用を生み出す製造業の発達が少なく、近年は建設業の地盤沈下も顕著である（図 1）。失業率が高く、有効求人倍率が日本でも最下位という、困難な雇用状況のもとにある。

図1 青森県の建設投資内訳



出典）国土交通省総合政策局『建設総合統計年度報』経済調査会（2000年までの著者は建設省建設経済局），各年より作成

図2 新規求人数の県内・県外別の推移



出典）青森労働局職業安定部編集・発行『労働市場年報』各年より作成

職業安定所を通じた新規求人は、県外求人が 2000 年に入ってから急増しており、この多くは製造業であるようだ。それに対して、青森県内の求人はほとんど増加しておらず、好景気の波がほとんどみられない（図 2）。

こうした青森県においては、明治期から仕事を求めた地域移動がさかんであった。とりわけ高度成長期を過ぎて 1980 年代までは、出稼ぎという就労形態が残り、関東圏への建設業出稼ぎが多くを占めていた。しかし、1990 年代以降は大幅に縮小しており、製造業にて働く割合が高まっているようである。

一方、職業安定所を通じた就職状況は、基本的には県内就職が圧倒的であった。しかし、一定の県外就職は、東京都や愛知県といった好景気地帯への流れがみられた。新規学卒者も典型的に関東圏の製造業へと就職する流れがみられ、その数はむしろ近年、上昇傾向である。

このようにみてくると、公共事業の縮小や土地開発の飽和化のなかで、青森県からの労働力移動においては、建設業の吸引力が低下し、むしろ、製造業への吸収が高まっていると考えることができる。むろん、その製造業は高度成長期のころのような、正規雇用で比較的安定した身分と給与を保障するものではなく、派遣や請負といった非正規雇用で、劣悪な労働条件下にあることは、多くの指摘があるところである。そしてこれらの仕事はより若年層を吸収している。そこには、中心と周縁を結ぶ労働市場の構造的な問題がみてとれた。

(2)若年層の貧困・ホームレス化の特徴

ではこうした背景のもとに、実際に若年層の貧困・ホームレス化はどのような就業の特徴があるのだろうか。

まず、統計データから、若年層の仕事の業

種の変化について、中・高齢層のそれと比較しつつみてみよう。データは、東京都のホームレスの一時保護センターに、2002 年 4 月から 9 月末日までの 6 ヶ月間に入所した利用者 1100 人の調査結果である（表 1)。

表1 施設利用者の年齢層別業種の変化

		34歳以下		35-54歳		55歳以上	
初職	農林漁業	1	2.2	15	3.0	35	9.0
	建設業	6	13.3	53	10.8	43	11.1
	製造業	10	22.2	202	41.0	157	40.4
	卸売・小売業・飲食店	14	31.1	113	22.9	73	18.8
	運輸業	0	0.0	16	3.2	12	3.1
	複合サービス・サービス業	6	13.3	42	8.5	36	9.3
	その他	8	17.8	52	10.5	33	8.5
	計	45	100.0	493	100.0	389	100.0
最長職	農林漁業	1	2.3	5	1.3	4	1.0
	建設業	6	13.6	142	36.5	141	36.2
	製造業	8	18.2	94	24.2	87	22.4
	卸売・小売業・飲食店	11	25.0	98	25.2	54	13.9
	運輸業	3	6.8	41	10.5	39	10.0
	複合サービス・サービス業	6	13.6	68	17.5	48	12.3
	その他	9	20.5	40	10.3	16	4.1
	計	44	100.0	488	100.0	389	100.0
直前職	農林漁業	0	0.0	3	0.6	1	0.3
	建設業	17	37.8	267	55.5	215	55.1
	製造業	2	4.4	49	10.2	25	6.4
	卸売・小売業・飲食店	8	17.8	54	11.2	37	9.5
	運輸業	4	8.9	25	5.2	26	6.7
	複合サービス・サービス業	12	26.7	63	13.1	72	18.5
	その他	2	4.4	20	4.2	14	3.6
	計	45	100.0	481	100.0	390	100.0

出典）『緊急一時保護センター大田寮利用者実態調査（資料編）』より作成

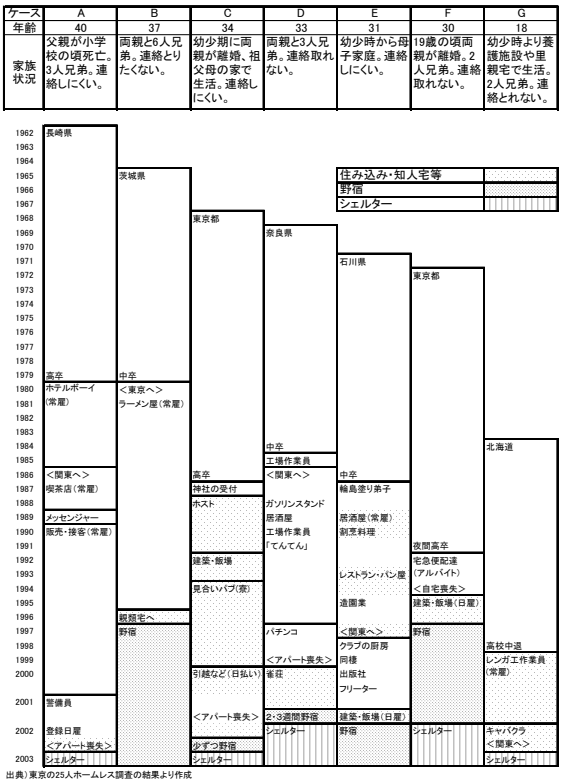
初職時において 35-54 歳の中年層は製造業が 41.0%、55 歳以上の高年層も 40.4%と、他の職種のなかでも群を抜いて多くなっている。それが最長職では建設業が多くなり、直前職になると、中年層は建設業 55.5%、高年層は 55.1%と半数強を占めるようになる。これに対して、34 歳以下の若年層は、初職時で最も多いのは、卸売・小売業・飲食店で 31.1%であり、他の職種にも比較的ばらついている。最長職は卸売・小売業・飲食店が 25.0%、その他が 20.5%とやはり広く職種にまたがり、直前職になると、建設業が 37.8%とやはり多くなっているが、複合サービス・サービス業も 26.7%と一定の割合を占める。

つまり、製造業から建設業へという大きな職歴の流れが特徴的な中高年層に対して、若年層もその特徴がある一方で、卸売・小売業・飲食店、およびサービス業関連の職業へと流入する流れも特徴的である。つまり、近年の日本のサービス経済化の背景がみてとれよう。

さらに、よりミクロな若年層の貧困・ホームレス化のプロセスについて、中高年層と比較しつつ、事例分析を行った。データは、2002 年 3 月に東京都内で行った 25 人のホームレスの人々を対象とした聞き取り調査のデータを再分析したものである（図 3)。

職歴をみてくると、やはり、確かに中高年層はより建設業の日雇労働で働いてきた傾向があり、若年層はむしろサービス業や軽作業の請負・派遣業で働いてきたという傾向があった。そこには、日本の脱産業化と非正規雇用化の経済変動が色濃く現れていると考えられる。しかし、それは時代によって、どのような産業が使い勝手の良い労働力を多く必要とするか、ということの違いであると考えられる。実質的には日雇で非常に不安定な仕事であり、置かれた状況は酷似していた。

図3 若年層のホームレス化の過程



出典）東京の25人ホームレス調査の結果より作成

そして、そうした就業状況と重なりながら、何らかの理由で恒常的な住居を失っていた。いったんホームレス状態になってからは、職住一体の仕事を探したり、安いホテルに泊まったり、寝泊りできる店舗をてんてんとしたり、時に野宿するなどの、流動的な生活となる。 90 年代以降はマンガ喫茶やインターネットカフェが新しいオプションとして加わった。

そのなかで、身体的にも仕事につくことが困難な中高年層は、野宿が長期化し、かえって路上でより定着的な生活をし始める傾向がある。一方、若年層の生活は非常に流動的である。つまり、働ける健康な身体と「従順な」心を持つ限りにおいて、使い勝手の良い彼／彼女らは労働力として絶えず回収される可能性がある。仕事の有無で彼らの身体の置き所は流動的に変わり、その身体はみえにくい。

そうしたときに、家族や友人などの親密な社会関係はセーフティーネットとなりえるが、基本的に希薄であった。とりわけ、若年時にホームレス状態になる人々は、例外なく早い時期に離婚や死別、および暴力などの理由から、定位家族が喪失している、つまり、早い時期から「不利な状況」にあった。若年のときにホームレスの状況に陥るのは、確かに、困ったときに親のサポートが受けられるかどうか、同居できるかどうかが重要である。

ただし、大きく異なっているのは、ここでみてきた若者には、仕事・生活上において共同性をはぐくむようなメディアが圧倒的に不足していた。中高年の日雇建設労働者には、帰る「寄せ場」があり、また同じ飯を食う「飯場」があった。同じ労働者としての「同一化の論理」も働きやすかったという(西澤 1995)。しかし、現在の不安定就労下の若者は、基本的に携帯電話で個々に雇用者とつながれ、ヨコのネットワークが広がりにくい。帰る場所も生活も異なる。さらに、中高年層が路上や公園で社会関係を再度とり結んでいたのに対して、彼／彼らはそのようなメディアを利用することも少ない。路上にいるよりも、むしろ孤立化が進んでいるようであった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）
①山口恵子、2009 年 3 月、「若者の大都市への移動と生活――青森県出身者へのインタビュー調査から」弘前大学人文学部付属雇用政策研究センター編集・発行『都市に暮らす地方出身の若者の就業状況と地元意識に関する調査研究』(EPRC 研究報告書 No.4)、79-99 頁、査読無
②山口恵子、「地方労働市場の変化と地域移動」、理論と動態、1 巻、145-159、2008、査読無

〔学会発表〕（計２件）
① Keiko Yamaguchi, Youth Homelessness and Social Exclusion in Japan, International Sociological Association Research Committee 21, December 18, 2008, Tokyo
② Keiko Yamaguchi & Ichiyo Habuchi, Youth and Homelessness in Japan, International Sociological Association, September 7, 2008, Barcelona

〔図書〕（計２件）
羽渕一代、恒星社厚生閣、「ホームレス化する若者？」『どこか＜問題化＞される若者たち』、2008、45-61

作道信介、東信堂、「都市と路上で生きる人々」『近代化のフィールドワーク』、2008、123-142

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕

６．研究組織
(1)研究代表者
山口　恵子（YAMAGUCHI KEIKO）
弘前大学・人文学部・准教授
研究者番号：40344585

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし